

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300880
法人名	(有)ひだまりの会
事業所名	グループホームいぶき
所在地	宇和島市伊吹町甲1368-3
自己評価作成日	平成24年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いつも明るく、笑顔がたえないホームです

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●利用者からの希望もあり、お墓参りに出かけることを支援された事例がある。ボランティアの方の協力を得て出かけられ、最上段にあるお墓に、下の道から手を合わせられた。さらに、お寺の本堂で住職とお話しをされて、ご本人はとでも満足されたようだ。状態が落ち着いておられる時を見計らって、ご家族に電話して近況等をご自分で報告できるよう支援されている。ご自宅で生活しておられた際に、悪徳な訪問販売等とかかわりがあったような方もあり、知り合いとの付き合いについては、常にご家族と相談しながら行っておられる。</p> <p>●食事は、できるだけご自分の力で食べることができるよう支援されたり、事業所内の移動は、車いすを利用するのではなく、職員の介助にて歩行できるよう支援されている。「そろばんが得意だったので、そろばんを弾くような機会を作ってほしい」というご家族の意向や編み物がお好きだった方は、ご家族が毛糸とあみ針を持参していただき、ご家族の協力も得ながら支援されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいぶき

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

田中 ちとせ

評価完了日

平成24年 1月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 努力している (外部評価) これまで、法人理念を事業者理念として掲げておられたが、すべての職員で地域密着型サービスとしての理念について話し合い、「この地で楽しく いきいきと 安心して暮らせる」と、事業所理念を作成された。又、スローガンには、「ありがとうと感謝し、助け合い 笑い声が絶えない毎日でありますように」と掲げておられた。職員ミーティング時には、理念に基づきケア目標も作成して、理念の実践に取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的ではないが、自治会に参加したり清掃に参加したり、運動会を見に行ったり散歩の時に近所の方と言葉を交わしたりはしている。施設の花火大会、芋炊きなどに地域の方が来られ、楽しいひとときを過ごす (外部評価) 近所の方とは、散歩時あいさつを交わしたり、ゴミ出しの日には近所の高齢者の方々に「お手伝いすることはないか」と、声をかけておられる。近くの美容室を利用している方や、最近オープンした理髪店は、訪問してくれることを教えてもらい、男性利用者が利用できるよう考えておられた。避難訓練の際には、近所の方々にも声をかけ参加してもらっている。近所の方がお孫さんと一緒に遊びに来てくれたり、近くの子ども達が、事業所の庭を通過して遊びに行き来する様子も見られる。本の読み聞かせやカラオケのボランティアの訪問もあり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) まだ活かせていない	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 充分ではないかもしれないが、活かしている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、地域の方や家族代表の方、利用者、他グループホームの管理者等の出席がある。お花見等行事の報告や看取りを支援した際の報告、研修報告等を行い、意見交換をされている。外部評価実施後、日常的な外出ができるような取り組みをすすめておられ、外出する機会が多くなり、利用者の楽しみとなっていることも会議で報告された。運営推進会議を通じて他グループホーム管理者とも親しくなり、外部研修受講に誘ってもらい、一緒に外部研修を受講されたこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) あまり積極的に取り組んでいない 2カ月に1回の運営推進会議の時に伝えるくらい</p> <p>(外部評価) 市内のグループホーム連絡会は、地域包括支援センターがかかわっておられたが、現在は、市内の事業所が自主的に2ヶ月に1回、開催して情報交換されている。市では、来年度「徘徊SOSネットワーク」の取組みを計画されており、事業所も協力したいと考えておられる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄錠の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ・出来るだけ努力しているが、しらずしらず言葉の拘束をしている時がある ・施錠していないので時々外に出られ、探しに行く時がある</p> <p>(外部評価) 利用者が「家に帰りたい」という気持ちになった場合は、散歩に出かけ気分転換されたり、外に出かけることが難しい場合は、歌と一緒に歌ったり、お好きな本を読み、気を紛らわせたり、ご家族へ手紙を書いてみる等して支援されている。以前、利用者が行方不明になった時、ご本人の知り合いに偶然出会い、警察に届けてくださり、発見できたというようなことがあった。法人内の職員が「徘徊者への対応」について研修を受け「まず、5分間でいいからその人の話を良く聞いてあげると良い」と習って来られ、近々、職員会で共有して身体拘束をしないケアの実践につなげていくことを計画されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) している (虐待はない)	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 充分ではないがしている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 努めている 契約書をよく読んでもらったり、説明等で理解・納得できていると思っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時に、お話を聞かせてもらっている。運営推進会議の時に意見を言ってもらっている (外部評価) 毎月、利用者個々の担当職員が利用者ご本人の近況報告を手書きして写真を添え、ご家族に送付されている。時には、利用者ご本人に近況を書いてもらい同封されることもあり、ご家族は楽しみにされている。ご家族は、ご自宅の味の麵つゆやご本人のお好きなお菓子、手作りおやつを持って来てくださったり、又、ご家族が食事の様子をみて、食事時のエプロンを手作りしてくださることもある。さらに、食事の介助に来てくださるご家族もある。今後は、携帯電話を利用して、利用者の生活の様子の映像を送信したいと計画されていた。	近くに住むご家族が多く、協力的なご家族も多いことから、管理者は今後、「食事会等、ご家族が集まる機会を作りたい」と考えておられる。ご家族は、利用者の暮らしをともに支えるケアのパートナーでもあり、ともに活動したり、勉強するような機会を作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			反映させている	
			(外部評価)	
			外部研修を受講した職員は、ミーティング時に報告してすべての職員で情報を共有されたり、職員は、ケアについても意見を出し合い、話し合っ一丸となってケアに取り組んでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			充分とはいえないが努力している	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修には行ってもらっている その後、ミーティングまた、必要に応じ研修している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			充分とはいえないが、運営推進会議・研修会・グループホーム連絡会等で交流し、取り組んでいる	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人さんを見、話し掛け、よく聞き、関係づくりに努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 開始する段階で、色々と話し合い、また電話、来られた時、手紙等で関係づくりに努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 充分とはいえないが努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 築けていると思う	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 充分とはいえないが、手紙・電話・来居時に話し、関係を築いている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 努めてはいるが、充分ではない 馴染みが本当に良い事ばかりではない事も知っておく必要があるのではないだろうか (外部評価) 利用者からの希望もあり、お墓参りに出かけることを支援された事例がある。ボランティアの方の協力を得て出かけられ、最上段にあるお墓に、下の道から手を合わせられた。さらに、お寺の本堂で住職とお話しをされて、ご本人はとても満足されたようだ。又、故郷のお祭りに出かけた際には、トンネルを抜けたとたんに「津島はええなあ」と感激され、肌でも故郷を感じられたようだ。又、状態が落ち着いておられる時を見計らって、ご家族に電話して近況等をご自分で報告できるよう支援されている。ご自宅で生活しておられた際に、悪徳な訪問販売等とかかわりがあったような方もあり、知り合いとの付き合いについては、常にご家族と相談しながら行っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 充分ではないが努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族とのお付き合いはある	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向の把握は簡単ではない 本人本位に検討はしているが本当にこれでいいのか 充分とはいえないと思うが、笑顔で暮らせたらと思っている	
			(外部評価) センター方式のアセスメント表を用いて、入居に至る経過、病歴、家族図、職歴・生活歴等について情報収集して、終末期のあり方についても希望をしっかりと聞いておられる。ご自分から意思表示をあまりされないような利用者の方には、職員が側で過ごしながらかつやくりお話を聞き、思いを探るようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 努めているが、独居の方が多く家族の方も知らない事が多い 日々の談話の中で聞き取り把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック、会話等で把握に努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>充分ではないが、している</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご本人、ご家族の意見を聞きながら、職員の意見も採り入れて介護計画を作成されている。食事は、できるだけご自分の力で食べることができるよう支援されたり、事業所内の移動は、車いすを利用するのではなく、職員の介助にて歩行できるよう支援されている。「そろばんが得意だったので、そろばんを弾くような機会を作ってほしい」というご家族の意向や編み物がお好きだった方は、ご家族が毛糸とあみ針を持参してくださり、ご家族の協力も得ながら支援されている。見直しは3～6ヶ月の間とされているが、身体的、精神的に変化が多い時には、その都度見直しておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>活かしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>充分にはできていない</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>いつもとはいえないが、たまに支援している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月2回のかかりつけ医の往診等、必要に応じ支援している	
			(外部評価) 協力医をかかりつけ医とされている利用者は、月2回の往診を受けておられる。又、ご家族が受診時付き添われたり、事業所で送迎して受診はご家族が付き添われる等、ご家族と協力し合って、納得のいく病院で診てもらえるよう支援されている。眼科、歯科への受診は職員が同行されており、女性専用の歯科を受診する際には、女性職員が同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週に1度(4時間)来てもらい様子を伝えている 看護記録をつけてもらっている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) チームで支援はしていないが、取り組んでいる	
			(外部評価) 事業所では、利用者から終末期のあり方について希望を聞き取っておられ、「延命はしたくない」等、希望を記録されている。利用者やご家族からは「最期はホームで過ごしたい」という希望もあり、主治医からは「見守ってあげんさいや」とすすめられて、初めて看取り支援に取り組まれた事例がある。看取りに取り組む際、すべての職員で「看取りすることを構えて考えず、自然に対応しよう」と話し合われた。県外から交代で姉妹が来られ、最期の数日前からは事業所に泊まり見守られた。利用者は娘さんの腕の中で息を引き取り、その顔は穏やかであったそうだ。ご家族と一緒にご本人の身体を拭き、これまで利用されていた近所の美容師がお化粧をしてくださった。このような経験を得て、職員からは「終末期のケアについて勉強してみたい」という声も上がっている。管理者は、「看取りすることを断っていたら、職員は後悔するところだった」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 充分ではないが行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 充分ではない (外部評価) 避難訓練時、消防署の方から「畳コーナーに敷いているカーペットは不燃のものにする」こと等についてアドバイスをいただき、実行するようすすめておられる。又、夜間時の職員の対応や地震、がけ崩れ時の対応についてアドバイスをいただいた。ヘルメットも準備されており、まずは、職員の身の安全を確保して、利用者を安全に誘導することに努めておられる。居室の名札は、紐で吊るしてあり、ご本人を避難させた際には、裏返すように工夫されている。	年2回の避難訓練を実施されているが、事業所では「充分ではない」と感じておられる。今後さらに避難訓練の回数を増やす等して、さらなる安全に向けて具体的な取り組みを重ねていかれてほしい。事業所では「タオルで作る防空ずきん」を利用者と一緒に作りたいと計画されている。又、いつ起こるか分からない災害に備えて、地域との協力体制や事業所での水や保存食等の備蓄についても、この機会に話し合ってみてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 行っている (外部評価) 利用者の中には、若い職員を孫と思っておられる方もあり、始めは利用者をお名前でお呼んでおられたが、ある日「婆ちゃん」と声をかけると、ご本人から「初めて婆ちゃんと呼んでくれたね」と喜ばれ、今では「みーちゃん」、「婆ちゃん」と呼び合うようになっていく。お華の先生をされていた利用者は、玄関のお花を生けたり、職員に生け方を教えてくださっている。職員は、一生懸命になると、だんだんと声が大きくなってしまふと感じておられる。職員の気付いたことは、ケアの質向上への最大の起点でもあり、今後のケアにつなげていかれることが期待される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 充分ではないが、働きかけている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 努力はしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 充分ではないが支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器やおぼん拭き 食材切りや、味見、後片付け等、楽しみながらしている	
			(外部評価) 魚屋が日曜、祭日以外は毎日来てくれていて、夕食には新鮮な魚料理が食卓に上がることが多い。時には、利用者が魚を選んでくださり、お刺身となることが多い。食材は、配達をお願いされたり、スーパーに買い出しに行かれる。利用者は、みな毎日牛乳とヨーグルトの配達を受けておられる。朝食は、パンを希望される方もいる。刻み食にしたり、スプーンを使う等して、利用者のご自分の力で食べることができるよう支援されている。利用者はごぼうそぎや味見、炒め物の手伝い、下膳等を行えるように職員が場面を作っておられた。歯磨きすることが難しくなった方には「歯磨きティッシュ」を使用して口腔ケアに取り組み、「口から食べる」ことを続けられるよう支援されている。食事はゆったり1時間をかけて食べ、食後はコーヒーを飲みながらゆっくり過ごせるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 努力している 好きな飲み物を勧めたり、時間を少しずらしてみたりしている 食後、声掛けし好きなものを飲んでもらっている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の声掛け、一人で出来ない人は職員がついて、一緒にしたり、歯ブラシが使えない時は、歯磨きティッシュを使っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 自立された方には、早めの声掛けを、又、介護の方はなるべくトイレで出来るよう支援しているが、なかなか上手くいかない方もある</p> <p>(外部評価) ご自分からトイレに行こうとしないような利用者の方には、ご本人の排泄リズムに合わせて職員が声かけて、それぞれの居室のトイレで排泄できるよう支援されている。少し失禁する心配のある方もいるが、日中はパットを使用せず、声かけや誘導に努め、布パンツで過ごせるよう支援されている。管理者は「もし失敗したら洗う」と考えておられる。失禁時、便器の中や洗面所で下着を洗う方もあり、トイレ詰まりやハイター消毒に気を付けておられる。夜間、居室に長時間電気が点いているような時には、職員がそっと見守り、必要時にはサポートをされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 充分ではないが取り組んでいる</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 希望に応じ、夏は毎日、冬は2回に1回にしている お風呂に入りたくない時は中止(鼻歌や、笑い声が聞こえてくる)</p> <p>(外部評価) 午後は買い物や外出されたり、ゲーム等して活動するため午前中が入浴時間となっている。浴室には、木の浴槽があり、椅子やリフトが設置されている。利用者は石けんを使用して体を洗っておられる。入浴中に鼻歌等が聞こえてくると、「気持ちのよい入浴」と把握されている。入浴に気が向かないような時には無理強いせず、体を拭く等して対応されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 支援している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴は、聞き取り調査で把握できにくい楽しみではわりに把握できている 充分ではないと思うが支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 努めている 以前より少しずつではあるが出来るようになった (外部評価) 「自宅に帰りたい」と希望する利用者と、ご自宅近くまで行ってみられ、近所の方とおしゃべり等されたこともある。お花が好きな利用者は、娘さんと職員とで三間のコスモスを見に出かけられ、帰りに仏木寺に車の中からお参りされた。調査訪問時の昼食後には、2名の利用者と管理者で手をつないで散歩に出かけていかれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理できる人はほとんどいない	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援しているが、手紙は掛けない人が多い なかなか自らがTELする事は出来ない。スタッフが時々TELし、話してもらっている。手紙の掛ける方には時々書いてもらっている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 充分ではないがしている</p> <p>(外部評価) 玄関外には、ご家族が漁具の養殖用パイで作った「かえる」を飾っておられた。玄関には水盤に金魚を飼っておられ、生花も飾られている。観用植物が配され、ご家族が手作りしたおひな様も飾られていた。玄関正面と居間の壁には利用者と職員が布で作った大きなおひな様と桃の花が飾られていた。畳のコーナーにはソファ、廊下には椅子が配されており、利用者はお好きなお店で過ごせるようになっており、昼食後、利用者に誘ってもらい廊下の椅子に座り、お話を聞かせていただいた。管理者をご自分の娘と思っておられる利用者からは、「娘をよろしく願います」とあいさつしていただいた。天井は、高く天窓が開閉できる造りになっている。廊下には柱時計があり、振り子が揺れていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 充分とはいえないがしている</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 工夫はしている (あまり家で使われていたものは持って来てもらっていない)</p> <p>(外部評価) 各居室には、トイレと洗面所が設置されている。ベッドが用意されているが、ご自宅と同じように畳を敷いて休んでいる居室も見られた。トイレで便座に座ると、真正面に洗面所の鏡があり、そこに映っているものに不安を感じるような利用者もあり、鏡の半面にカバーをかけておられた。時計やお気に入りの化粧品、シッカロールを使っている方や、編みかけの毛糸が見られたり、ご家族の写真、手紙、生花も飾られていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 努力はしているが充分ではないと思う</p>	